



前ページ写真データ

撮影時刻:2013年5月22日3:04

カメラ:Fuji FinePix S5Pro

感度設定:ISO3200相当 露出:120秒

レンズ:300mmF4.5(開放)

撮影地:奈良県吉野郡

Photoshopでレベル、コントラスト調整。

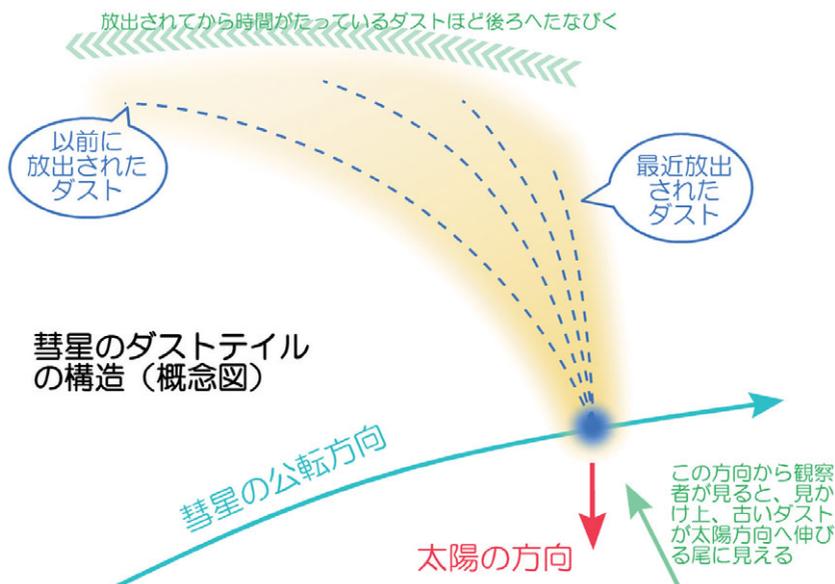
白いスケールが0.5°

らいになっています。

そして望遠鏡をカメラに載せ替えて撮影してみると、写真ではアンチテイルがとてもよく写ります(彗星の中心から左向き)。画像処理で強調すれば、1°を超える長さです。4月の頃の印象とはまた違った姿に変わりました。

アンチテイル、というのは、見かけ上太陽方向へ伸びる彗星の尾です。彗星の尾は、基本的に太陽とは反対方向へ伸びるのですが、彗星と太陽と地球の位置関係によっては、地球から見て、見かけ上太陽の方向へ尾が伸びているように見えることがあります。ダストの尾を作る粒子は、彗星から放出された後、太陽から遠ざかる方向へ移動するだけではなく、軌道上を進む速度が彗星よりも遅くなるため、彗星から置いてけぼりにされるように、進行方向に対して後ろ側へ湾曲した尾の形を作ります。

パンスターズ彗星は、ダストの尾が発達したのですが、3月上旬に太陽に近づいたときに、大量のダストを放出し、4月、5月と太陽から遠ざかるに従って、放出ダストの量は減っていると考えられます。アンチテイルがよく目立つのは、古いダストの方が量が多いためだろうと思います。



飯山 青海(科学館学芸員)